

退職するにあたって

中村 仁一

一九九九年十二月の就任以来、二十一年本当にお世話になりました。今年が同和園設立一〇〇周年、それを契機に交替を考えていました。しかし、予想外の展開となり、後任問題では、大変なご迷惑をかけてしまいました。

繁殖を終えれば、「健診」や「検診」は受けないというのが、私の主義ですから全く後悔はありません。

昨年六月までは、何の異変も感じませんでした。それが早足で歩く息切れするようになり、さらに坂道や階段では一層ひどくなり、同和園へ辿りつくまで、二、三度数分の休憩を余儀なくされる

ようになりました。そして、体重も十二キロほど減りました。これは尋常でないと考え、八月二十二日胸部X Pを撮り、右肺がんが判

明しました。これまで「どうせ死ぬならがんがいい」といつてきましたから本望ではあります。また、持論の如く、発見が手遅れで、がんに対して何の手出しもしていませんので痛みはありません。ただ、呼吸困難には閉口しています。食べ物物の通り道は勘弁と思つていましたが、息の通り道もまづいですね。最後まで、できるだけ医療との縁は薄くと思つていますが、今は痛みはありませんが、今後痛みが

出るかもしれない。その時は「前世で余程悪いことをした報い」と思つて諦め、麻薬を使うことに吝かではあり

ません。時折、「死ぬのは怖くないですか」と尋ねられます。怖くないといえば嘘になります。しかし、自然な最期を見せるといふ最後の役目を考えると怖

が、それほどオタついていないのも事実です。その理由は、一つには、高二の時、切迫心筋梗塞で週三、四日、ひどい発作に見舞われながら、一度も弱音や愚痴を口にしなかった父の死につぶりで。二つ目は、少々仏教をかじり、人生は思い通りにならないもの（「生老病死」

は「苦」）、こだわらな、とらわれな、あるがまま受けよ（「空」の精神）などを日常生活の中に生かしてきたこと。三つ目が、「同和園」で、これまで六〇〇例以上、がん死も一〇〇例以上（うち肺がんは十四例）穏やかな自然な最期に立ち会つたことです。これこそが「同和園」にお世話になつたおかげと感謝しています。一足先に、あちらに籍を移しますが、皆様のご多幸を祈るとともに、できるだけ遅い到着を願っています。



は「苦」）、こだわらな、とらわれな、あるがまま受けよ（「空」の精神）などを日常生活の中に生かしてきたこと。三つ目が、「同和園」で、これまで六〇〇例以上、がん死も一〇〇例以上（うち肺がんは十四例）穏やかな自然な最期に立ち会つたことです。これこそが「同和園」にお世話になつたおかげと感謝しています。一足先に、あちらに籍を移しますが、皆様のご多幸を祈るとともに、できるだけ遅い到着を願っています。